



101

住友電工グループ・未来構築マガジン

特別号

Innovative Development,
Imagination for the Dream,
Identity & Diversity

さらなる、高みへ
挑戦は終わらない

特集：住友電工 陸上競技部

「萬事入精」を胸に、さらなる高みへ

「一人の人間として、できることすべてに誠心誠意を尽くすこと」

住友電工グループに400年にわたって受け継がれてきた「住友事業精神」の中にある、「萬事入精」の意味です。

社員はこの精神を胸に刻み、日々職務に一生懸命に取り組んでいます。

この精神は、スポーツに取り組む選手や指導者たちの姿勢にも通じるものがあります。住友電工グループが、陸上競技をはじめとするさまざまなスポーツや選手を応援している理由はここにあります。特に陸上競技部については、「世界で戦える選手を輩出すること」を目標に取り組みの強化を行っています。そして、スポーツ支援活動を通じて、スポーツや地域社会の発展にも貢献していくことを、住友電工グループは目指しています。

『id』特別号は、「萬事入精」を胸に、さらなる高みを目指す、住友電工 陸上競技部の選手たちに焦点を当て、一人ひとりの陸上競技に懸ける想いをお届けします。

さらなる、高みへ
挑戦は終わらない

気負いすぎず、 意識しすぎず、普通に

高校のインターハイで、絶対入賞できるだろうという試合で入賞できなくて、過信すぎたのかなということがあった。その時、コーチから自信と過信は違うと言われたのが記憶に残っている。

いまは、単純にいつもの自分の練習の成果を出せるように、そのまま気負いすぎず、意識しすぎないで普通に試合に臨んでいる。

最近では、中盤以降の伸びが良くなってきたので、中盤以降で一気に抜け出すレースを見てほしい。



■ 主な成績(受賞)

2021 東京五輪	110mH	日本代表
2022 オレゴン世界選手権	110mH	日本代表
2023 日本選手権	110mH	3連覇
2023 ダイヤモンドリーグ (DL) (スイス・ローザンヌ)	110mH	優勝

■ ベスト記録

110mH	13"04 (日本記録)
走幅跳	8m00
三段跳	16m08



写真：陸上競技マガジン

泉谷 駿介

SHUNNSUKE IZUMIYA



id 特別号

特集：住友電工 陸上競技部

さらなる、高みへ
挑戦は終わらない

楽しみながら、 感謝の気持ちを忘れない

U20の世界の大会に初めて出た時、同世代でもすごく強い選手ばかりで全然戦えず、次はシニアで世界と戦いたいと強く思うようになった。

何事も楽しんでやることは第一だけど、チームとして、会社として活動しているので、関係するみなさんに感謝しながらやるのがすごく大事だと思っている。

200mでは、コーナーの出口で他の選手より体一つ分前に出るレースをいつも心がけている。そこが僕の見てほしいポイント。



写真：陸上競技マガジン

■ 主な成績(受賞)

2022 日本選手権	200m	優勝
2022 オレゴン世界選手権	200m / 4 × 100 mリレー	日本代表

■ ベスト記録

100m	10"31
200m	20"26



写真：陸上競技マガジン

上山 紘輝

KOKI UEYAMA

id 特別号

特集：住友電工 陸上競技部

さらなる、高みへ
挑戦は終わらない

走った距離は、 裏切らない

早く（若く）からトラックで勝負するためには、大学ではなく実業団でやるのが一番の近道と思い住友電工に入社した。

座右の銘は、「走った距離は裏切らない」という言葉。中学校の時の恩師の言葉で、すごく僕の中で印象に残っている。しっかり準備することができれば絶対勝てると思ってレースに望んでいる。

ラストスパートに一番自信を持っているので、ラスト1周や、ラスト200mや100mという部分に注目して見ていただけたらと思う。



■ 主な成績(受賞)

2022 日本選手権	5000 m	2 連覇
2022 オレゴン世界選手権	5000 m	日本代表
2023 セイコーゴールデングランプリ	3000m	優勝

■ ベスト記録

1500m	3'36"69
3000m	7'45"08
5000m	13'10"69



写真：陸上競技マガジン

遠藤日向

HYUGA ENDO



id 特別号

特集：住友電工 陸上競技部

さらなる、高みへ
挑戦は終わらない

id 特別号

特集：住友電工 陸上競技部

小池 祐貴

YUKI KOIKE

自分はどこまで行けるのか。 それがモチベーション

小・中学校では野球をやっていて、陸上は高校から。最初のインターハイは2位だったが、陸上は勝つか負けるかだけでなく、タイムも競うものとして面白いなと思った。

結局は自分自身がどこまで行けるか、その好奇心の一点につける。僕は陸上競技というものに絞ったのだから、日本で、自分の人生でどこまで行けるのか、自分の100%とは何なのか、これを常に追求するのが自分のモチベーションになっている。

自分ができる限りのことはすべて手をつくして、後は結果を待つ。



■ 主な成績(受賞)

2018 アジア大会	200m	優勝
2019 ドーハ世界選手権	100m / 200m / 4 × 100m リレー	日本代表 (銅メダル)
2021 日本選手権	200m	優勝
2021 東京五輪	100m / 4 × 100m リレー	日本代表
2022 オレゴン世界選手権	200m / 4 × 100m リレー	日本代表

■ ベスト記録

100m	9"98
200m	20"23



写真：中野英聡



さらなる、高みへ
挑戦は終わらない

陸上競技を 楽しむ

2017年世界の大会に出て、100mの予選と準決勝でポルト選手と一緒に走り、横で走ったことがすごく嬉しかった。

陸上競技を楽しむということが一番結果に繋がっていくとすごく感じている。しっかり楽しむということをお忘れず、技術や基礎を積み重ねていくことが大事だと思う。

スタートから中盤が僕の武器で、飛行機が離陸するようなイメージを持って走っている。前傾区間から体が起き上がるところが一番僕の得意なポイントなので、そこを見てほしい。



写真：陸上競技マガジン

■ 主な成績(受賞)

2017 ロンドン世界選手権	100m / 4 × 100m リレー	日本代表 (銅メダル)
2019 ドーハ世界選手権	4 × 100m リレー	日本代表 (銅メダル)
2021 日本選手権	100m	優勝
2021 東京五輪	100m / 4 × 100m リレー	日本代表

■ ベスト記録

60m	6"56
100m	10"01



写真：陸上競技マガジン

SHUHEI TADA

多田
修平

id 特別号

特集：住友電工 陸上競技部

さらなる、高みへ
挑戦は終わらない

誠心誠意 全力で取り組む

僕が大学に入学する時に、大学のコーチから「競技力はもちろんやけど、お前の人間性を育てる」と言っていたので、そこに僕は衝撃を受け、付いていこうと思った。

住友電工には、萬事入精という企業精神があるが、その何事にも誠心誠意全力で取り組むというところは、陸上競技や十種競技のためにすべてを注ぎ込むという面と似ている。

身長 194cm の僕が、十種類の種目をダイナミックに、かつ器用にこなす姿をぜひ注目してほしい。



■ 主な成績(受賞)

2022 木南記念	十種競技	優勝
2023 アジア室内選手権	七種競技	優勝
2023 日本選手権	十種競技	優勝

■ ベスト記録

七種競技 (室内)	5801 点
十種競技	7816 点



丸山 優真

Y U M A M A R U Y A M A

id 特別号

特集：住友電工 陸上競技部

さらなる、高みへ
挑戦は終わらない

原点を 忘れない

高校生になって陸上に本気で取り組むようになったが、その時、世界のトップで戦う日本の選手を見て、私もそこで戦いたいと思い、住友電工に入る決断をした。

あるコーチから「原点を忘れるな」という言葉をかけていただいたのが印象に残っている。自分の良さだったり、もともとの強みだったりを忘れないという意味だと思う。

やっぱり1番は楽しむこと。楽しむ気持ちがあれば続けていけると思うし、なるようになるという言葉が、自分には合っている。

だけど、やるからには世界を目指す。



■ 主な成績(受賞)

2019 日本選手権	100m	優勝
2022 織田記念	100m	優勝
2022 オレゴン世界選手権	4 × 100m リレー	日本代表

■ ベスト記録

100m	11"46
走幅跳	6m03



写真：陸上競技マガジン

MIDORI MIKASE

御家瀬 緑



id 特別号

特集：住友電工 陸上競技部

社員の声援を糧に、世界を目指す



住友電気工業株式会社
陸上競技部 監督

渡辺 康幸



楽しくないと、強くなれない

私は恩師から、「走ることが好きでないといけない。嫌いになって後ろ向きになると強くなれない」と言われてきました。練習を好きになって、楽しく走りなさいと。陸上選手を目指す人たちには、記録が伸びなくても、常に前向きに笑顔で走ることの楽しさを覚えてほしいと思います。

世界的な選手を育てたい

早稲田大学時代は駅伝で優勝し、監督も経験でき、私の陸上競技人生の中で特に成長させていただいた素晴らしい時でした。その後、当時の松本社長に出会い意気投合し、世界的な選手を育てたいという気持ちで住友電気陸上競技部の監督に就任しました。

私が入社した2015年は、選手が入れ替わる難しい時期でした。企業は大学より費用対効果が求められるので、結果を早く出さなくてはいけないというプレッシャーを感じました。ただ、大学の監督の時も、低迷していたチームから優勝まで昇りつめたので、苦境を乗り越える精神力や忍耐力は身に付いていたようです。当社でも常に頑張ってきたのは、当時の経験が生きているからだと思えます。

上位下達の指導からの脱却

選手たちには、できるだけ自立してほしいという想いがあり、対話を中心に横並びの指導を心がけています。社会人になると選手も自分の意見をしっかりとってきます。私の現役時代よりも実績を超えてきているので、上意下達ではなく、常に一人ひとり横並びか、後ろから支えることに注力しています。

住友電気の陸上競技部は、良い意味でも悪い意味でも鼻っ柱の強い、個性の強いチームです。No.1になる選手というのは我が強いものです。そして「有言実行」。どんなきつい練習でも逃げずにやる。自己管理など指導者に常に細かいことを言われなくても自分でできるようにすれば、日の丸を付ける選手はもっと増えると思います。

社員のみなさんの応援をチカラに

私は、「天真爛漫」なチームを作りたいと思っています。そして、みなさんから応援されるチームを作っていきたい。私たちが陸上競技を続けていけるのは、会社の理解や支援、裏方のスタッフの協力があるからです。そして何よりも、選手も社員の方たちと触れ合って、応援してもらうことが大切です。感謝の気持ちを忘れず、「有言実行」で日本を代表する選手を育成し、世界大会でメダルを取れる選手を一人でも多く輩出できたらと思っています。



住友電気陸上フェスタ2022(パラ陸上競技)



住友電気陸上フェスタ(陸上教室)



住友電気陸上フェスタ2022(伊丹市内中学対抗4×100mリレー優勝チームと共に)

地域に密着した社会貢献活動

陸上教室・住友電気陸上フェスタ



住友電気陸上フェスタ(陸上教室)

「住友電気グループ社会貢献基本理念」のもと、地域社会との共生を目指し、地域に密着した社会貢献活動に力を入れて取り組んでいます。その取り組みの一環として、住友電気陸上競技部を中心に陸上教室や陸上大会の協賛を通じた地域スポーツ振興を行っています。

これからも地域の小中学生や幼稚園児に実施する陸上教室や『住友電気陸上フェスタ』という地域に開放して実施するイベントなどを通じて、住友電気グループが地域のみなさまから信頼され、愛される存在となるよう努めていきます。

住友電気 陸上競技部への応援をお願いします。

住友電気 陸上競技部
公式 Web サイト



Instagram

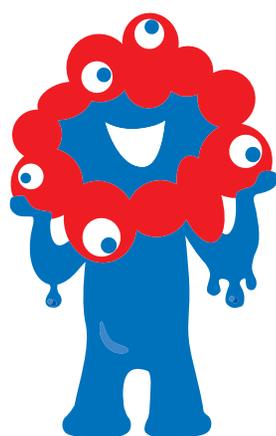


Twitter



住友電気
スポーツ支援ページ





OSAKA, KANSAI, JAPAN
EXPO2025

住友電工は「2025年大阪・関西万博」を応援しています。

©Expo 2025

住友電工グループ・未来構築マガジン
id 特別号

『id』特設サイトでは、本誌に掲載されていない情報や動画もお届けしています。ぜひご覧ください。

<https://sumitomelectric.com/jp/id>



発行	2023年7月
企画・発行	住友電気工業株式会社 広報部
	大阪市中央区北浜 4-5-33 (住友ビル)
編集発行人	堀葉 祐一郎
編集・制作	ユニバーサル・コンボ有限公司